



うちこ福祉館は、どんな事業をしているの？このような質問を住民の方々から受けることがあります。そのため、今号より隣保館運営事業の中から「隣保館ティサービス事業」、「地域交流促進事業」など、当館で実施している事業内容について簡単に触れてまいります。

最初にご紹介するのは、隣保館ティサービス事業の一つ「押花教室」です。

福祉館事業紹介①



令和6年
7月発行
電話・FAX
44-3410



押花とは、自然の草花を本や紙の間に挟んで平面にして乾燥させたもので、夏休みの自由研究を思い出す方も多いかもかもしれませんが、自然の色や形を生かし、一見すると絵画のような出来栄です。そのため、色を塗って線を描いたと思われるがちですが、全て花や葉、茎などを用い、それ以外は和紙などを切り貼りして創り出す立体的なアートです。手先を使った細やかな作業で脳の活性化と身体機能の維持に努め、植物や季節の知識を深めて美的感覚を高めることができます。

現在、毎月第三月曜日の午後には講師の西淵和美さんと八名の生徒さんが熱心に創作活動に取り組んでいます。活動の一環として、愛媛県美術館での「松山すみれ会」押花作品展に出品

時間をかけ、丁寧に仕上げられた作品は油彩画のようで、初めて鑑賞される方はその繊細さに驚かれます。「内子地区夏まつり」や「福祉館まつり」などでご覧いただけます。興味のある方は、ぜひ当館へお問い合わせください。見学も可能です。



しています。今年も五月二十三日から二十六日まで開催されましたので、作品をいくつか掲載します。



今年も猛暑となるようですが、八月も楽しみにお待ちしております！

六月三日（月）に開催しました。コロナ収束後も、少し寂しい状況でしたが、常連の方々や初めての方へお声がけ下さるなど、以前のような賑わいが戻りつつあります。毎月、第一月曜日の午後、お茶やお菓子を楽しみながらの交流です。お気軽にお越しください。次回は、八月五日（月）開催です。

わいわい喫茶

健康講座



四月二十三日と六月十八日に健康講座を行いました。

四月は、「お口からはじめる健康」口腔ケアの必要性」と題して在宅歯科衛生士の井伊 由佳さんのお話を伺いました。歯のケアを疎かにすると、虫歯や歯周病の原因だけでなく、全身の病気を引き起こすリスクが高くなるなど、口腔ケアの重要性について学ぶことができました。

講話の後には、内子町管理栄養士の河野 洋子さんのレシピによる「よく噛んで食べる料理」を全員で調理して試食しました。



六月は、「脳・心・腎を守ろう」と題して内子町保健師の尾上 杏奈さんに講話いただきました。愛媛県は、心疾患による死亡率が全国でも高く、高血圧で服薬治療を行っている方も多いようです。高血圧を改善し動脈硬化のリスクを軽減するため塩分を控えることの重要性について学ぶことができました。



講話の後には、内子町管理栄養士の河野 洋子さんの「減塩食を美味しく頂く」レシピによる料理を全員で調理して試食しました。



福祉館運営審議会

五月三十一日（金）に令和六年度「うちこ福祉館運営審議会」を開催しました。メンバーは、運営審議委員のほか、町長、住民課職員、当館職員で構成しており、令和五年度活動報告及び事業報告、令和六年度運営方針及び事業計画（案）、トイレ改修等の説明の後、委員より内容に関する質疑を受けました。

巡回相談の対応状況や昨年六月に部落解放・人権研究所からの聞き取り調査時に助言のあった講演会等の来館者を実施した「差別に関するアンケート」の取組状況や参川福祉館との共同事業など、今後の事業展開にも貴重な提言をいただきました。



今年は、去年以上の生育を目指します



城廻コミュニティビジネス部に感謝

●城廻自治会「コミュニティビジネス部」よりいただいた苗が成長し来館者に喜ばれています。毎年、本当にありがとうございます。
●グリーンカーテンのゴーヤも日々成長しています。昨年は猛暑により生育不良でしたが、今年は病気にも注意しながら育成します。